

自己評価(3階)

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月にフロア会議での目標設定を基本理念に基づいたものを掲げ、理念の共有、日頃のケアに繁栄されるよう努めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での掃除へは参加しているが、限られた職員のみである。時には、入居者様も一緒に参加できればと思う。毎年の夏祭り以外には特に地域との交流の場はなく、新たに保育園児等との交流の場を実現していきたい		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	伊丹市からの事業委託を受け、認知症サポーター養成講座の開催や認知症介護の相談窓口となっている。認知症サポーター養成講座の開催の為新たなスタッフがキャラバンメイト研修を受講した		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	フロアリーダー、計画作成担当者のみでなく、その他職員にも参加してもらったことで、普段接する機会のない地域包括・民生委員の方々、また、家族代表の方に対してフロアの現状報告・第三者からのご意見を伺う等、良い経験ができる場となっていると思う		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム連携会にも担当者に出席して頂き、現状を理解してもらい、協力して頂いている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修時に具体的な行為の再確認を行った。また、今回の研修の中で普段転倒事故防止のためにと車イスを使用してもらうことがあるが、車イスを使用をすすめることが、身体的・精神的拘束へとつながってしまうことも認識し、車イスから座椅子へ、車イスから介助歩行にとできる限り取り組んでいきたい		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で「虐待関係について」の研修を実施した。ケアが不適切な場合にも心理的な虐待へと繋がってしまうという事を職員一人一人が自覚し、良いケアへと繋げていきたい		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現場のスタッフへは、「権利擁護とは」「権利擁護を守るには」の話はしているが、皆さんご家族の支えがあり、ご家族からの意向等が合った場合に相談に乗っており、後見人を必要とされる方は現状おられない		
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約等については、これまで同様に管理者が説明を行っている。各職員も施設内研修の際、重要事項説明書に記載している「身体拘束」等について話し合い ホームの方針を再認識・共有できるよう努めている		
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で入居者様と個別に会話出来る機会を出来るだけ作れるよう努めている、家族の面会時には入居者様の現状を報告し家族の意見・要望を聞けるようにも努めている。		
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本社会議での決定事項等は、管理者より職員へ報告意見があればその都度聞けるような機会は設けられている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格や勤務状況、サービスの実績により給与や賞与等に反映されている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修のお知らせをフロアの事務所内に掲示し、受講の機会を作っている。また、日頃のケアのワンポイントアドバイスとなる資料も随時掲示している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	伊丹市グループホーム連携会が立ち上がったばかりで今後の取り組みに期待している。同法人内でも会議を開催している		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は他入居者との間で馴染みの関係が築けるよう職員が間に入り交流の場を作ったり、職員が代弁し本人の思いを他者に伝える等の支援をしているが、他者から見れば突然来たように思い、警戒してしまう方もおられるので 他入居者への配慮も重要であることを毎回感じさせられる		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様に対しても困ってられることや、要望等に耳を傾け、聞いて行く様にし関わりを続ける事により、両者の信頼関係が出来てくるのではないかと考えています		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階では互いに本音を持ち出すことは困難ではあるが、利用者様の意向に沿う様、家族様の意見も取り入れ、より良いサービスを提供できるよう努力が必要とされる		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームの生活に「家族」を感じてもらう様にしてスタッフの個性に合わせ「口うるさい娘や息子」「やさしい孫」の役割を果たし、一緒に生活していると実感出来る様に努めている。礼儀と相手を敬う気持ちを忘れない様にもしたい		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には現状報告を行い、ご意見・要望を伺えるように努めている。面会のない家族様に対しては本人や施設との関係が遠のかないよう電話での連絡を随時行っている。家族との連絡記録ファイルを作成し、家族との連携状況をわかり易くした。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人といえば、家族の面会程度にとどまっている。		
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じテーブルの方同士 自然と会話ができるようお互いの関係性を考え座席位置を 席替えて決めさせて頂いている。他者との交流が困難な方の周りには職員が座る場所を空けており、他者とのコミュニケーションの橋わたしができるように努めている		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後入院先で亡くなられた入居者様のご家族がホームに何度か足を運んで下さり、他入居者・職員へ感謝の言葉を頂いた時は、励みとなり大変嬉しく思いました。一方で、退所後 ご家族より全く連絡の無い方もあり、ホームより連絡をとりづらく迷うこともある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から少しでも多くコミュニケーションをとれるように心掛けている。意思疎通ができ難い方に大しては表情や行動から本人の気持ちを察してあげられるよう努力している		
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式 B-2、B-3シートを活用し、生活歴・習慣の把握に役立っている		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のフロア会議の際に各担当からご本人の現状報告をする機会を設け全員が把握出来る様に努めている		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に各入居者担当者が日程調整を行いケアカンファレンスを行っている。計画作成担当者が中心となり基本的な捉え方が職員全員ができる様勉強会を実地した。		
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの援助内容の実践状況が把握できるよう生活記録の書式を改めてみたが、記入もれや、(個々の援助内容をしっかり把握できていない)が多く、しっかりと活用できていないのが現状である		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変にかつ、柔軟な対応をしている。併設のデイサービスセンター機能の活用により、地域との関係性を大切にし、理美容にも社会資源を活用し、外食や送迎、通院の介助等、積極的な支援を行っている		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	3・28の項目と同様に臨機応変な対応を行っている		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医、若しくは循環器Drの往診を定期的にかけており、急変時等、本人の体調に応じて主治医と連絡をとり適切な医療が受けられるよう支援している		
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医との連携で訪問看護師によりホームで行える最低限の医療処置を必要に応じて受けてもらっている		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中より、退院日又はホーム戻れる状態であるか等、入院先のDr・主治医・ご家族と連携をとりながら対応している。入院時の病院への情報提供(介護サマリー)、退院時病院側からの情報提供依頼を行い、又、職員が病院へ出向きDrや看護師より話を伺い現状の把握に努め退院後のホームでの生活支援を職員間で検討している		
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年も家族様、本人とのカンファレンスを開き、当施設の方針を改めて説明しました。終末期のあり方についても家族の思いをい確認させて頂きました。		
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法の訓練を今年はまだ実地できていないので、今後 予定してもらいたい		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難訓練は入居者を交えて実施したことはあるが、夜間帯や寝たきりの方を想定した訓練は行えておらず、不安がある		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	体力の低下により、見守り・介助を要する場面がどの入居者様にも多くなってきているため、つつい「～して下さい、～しないで下さい」と一方的な声かけをしてしまうことがある。スタッフ間で注意し合い 入居者様本位のケアが出来るよう努めたい		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフへの遠慮、気遣い、又、認知症の進行により本人自ら思いを表すことはあまりないが、日頃より会話する機会を多くもてるように心掛け、本人の思いを聞き出せるよう努めていきたい		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体力の低下に伴い年々意欲もなくなってきている。又、職員は日頃の業務や見守り・介助に追われ1人1人に向き合う時間がなかなかとれないのが現状ではあるが、本人の「したいこと、好んでいる事、楽しんで出来る事」は何か？を考え気分や体調に合わせて 取り組んでもらえるよう支援していきたい		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外部へ出掛けてオシャレを楽しんで貰う機会は持てていない、外出する時間がなかなか作れない事や入居者自身が家族に任せていたり、ホームでの生活費の事を考え、オシャレには遠慮がちである事が原因としても考えられる、お金の掛からないちゃんとしたオシャレが出来る物を考え、「自分を磨く」事を忘れない支援をしたい		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食時前の食事の準備は、主に女性入居者様にお手伝いしてもらっている。又、台所に入って職員と一緒に食事を作ったり、盛り付けをしてもらったりもしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態は個人に合わせ、お粥や刻み食にする等の工夫をしている。食欲のない方には口あたりの良い物への代替をしている。水分摂取量が少ない方へは食事中以外にもこまめに飲み物を提供したり、ゼリー・果物等で補っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼食後のうがい、夕食後の歯磨きをしてもらうようすすめている。介助の必要な方にはスタッフが口腔ケアし、義歯洗浄等おこなっている		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意のない方であっても、本人の様子や排泄リズムを見ながら声掛け、トイレに通う習慣がもてるよう支援している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量が少ない方にはこまめに飲み物を提供 水分摂取量チェック表を活用している。野菜ジュースや乳酸菌飲料も個々に提供している		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴については、どなたも2日に1回の間隔で入浴して頂いている。本人のその日の体調や希望、気分に合わせて、無理強いはせず 時間をずらしたり、翌日に変更する等 出来る限り本人の意向に合わせている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転気味になっている方に対しては日中の活動時間を増やせるよう 職員全員が意識して支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新たな薬が処方された時等は、薬剤師に連絡し、薬の作用・服薬の注意点等の指導を得るようにしている。また、必要に応じて服薬後の状態を把握するため24時間チェックシートを活用している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月間目標に「室内レクで交流の場を作ろう」と掲げ 入居者様同士の楽しく交流出来る場が作れるよう努めている。 個別に散歩や買い物に出掛け 気分転換も図っている		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者全員が希望・要望に合わせて外出できてはいない。なかなか外へお連れする機会が作れないのが現状である。 個別の外出・外食は、職員の公休日を利用し出掛けることが多い		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、ホームで行うため、所持してもらう事はない。職員と一緒に買い物したり、一緒に買い物へ行く事はしている		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に合わせて家族へは電話してもらうことはあるが、度々となると家族への負担もかかってしまうため、職員が話相手となり気持ちをなだめることもある。家族が面会に来た事を忘れない様に(思い出す様に)家族に手紙を書いてもらうこともある		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内 季節に合わせた飾りや、見た目にも華やかな飾りつけをして 見て楽しめる工夫をしている		
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の交流が増えるように考え定期的にフロア内の模様替え(テーブル・座席位置の変更)を入居者様の了承のもと行っている。 テーブルとは離れた場所にソファを配置し、他者に気遣うことなく過ごせる空間も設けている		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝返り、ベットからの立ち上がり等、基本動作の状態、本人の動き方に合わせ、ベットの位置等を替える工夫をしている。床に座ってTVを見る方には家族・本人と相談しリクライニングチェアを用意してもらった		
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様全体的に出来ない事も増えていきますが、何かをして頂くことに対して、入居者様の意思を尊重し、出来ない、しない事には無理強いほしないように心掛けています。今日、出来ないことが明日には出来る場合がたくさんあります。しないことも他の利用者様と一緒にならばして頂けることもあります。気長に楽しく過ごして頂きたい。		